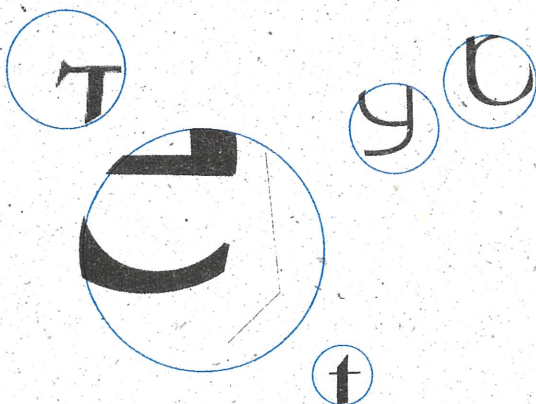
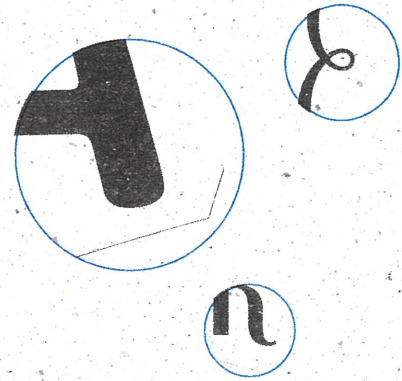
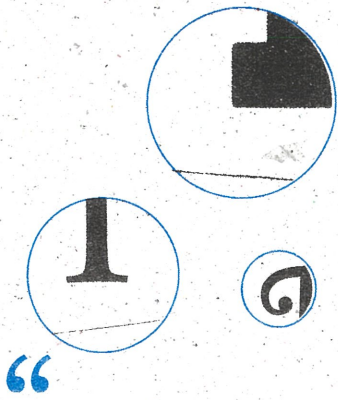


展示会 小林章と欧文書体展

同志社女子大学京田辺キャンパス
ラーニングcommonsギャラリー

6月18日(水) — 7月14日(月)



講演会
フォントのふしぎ

同志社女子大学京田辺キャンパス C131

6月18日(水) 15:30-17:30

6月18日(水)―7月14日(月)

会場 | 同志社女子大学京田辺キャンパスラーニングcommonsギャラリー

東京で5月24日から6月15日までの土曜と日曜にBook&Designで開催される「小林章と欧文書体展」の巡回展です。今年5月の『欧文書体 基礎知識と使い方』の刊行に合わせて、小林のこれまでの著作と30年以上にわたる欧文書体デザインの仕事を紹介する展覧会を開催します。

会場では、小林の著作のほかに、市販されているフォント約40書体とそれらの書体が欧米で使用されている例、デザインのスケッチなどを展示します。

また、2025年3月に発売された小林デザインの金属活字書体AKルネサンスの現物と活版印刷によるポストカードなどもご覧いただけます。

フォントのふしぎ

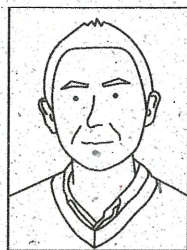
6月18日(水) 15:30-17:30

会場 | 同志社女子大学京田辺キャンパス C131

情報を文字で表すとき、フォントの選び方や使い方によって伝わり方が違う、と感じたことはありませんか。優しく語りかけるようなものになったり、逆に強い命令口調になったり、あるいは事務的で目立たない印象になったり。

毎日私たちが何気なく読んだり使ったりしているフォントは、それぞれのニュアンスを持っています。私たちはそれを感じ取ることで目に入る文字情報を無意識のうちにふり分け、また発信の際には「この文章が他の人にどんなふうに伝わるだろう」と想像します。その「どんなふう」には、文字の大きさや色だけでなく、文字そのものの形が影響を与えているんです。

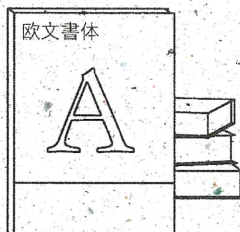
この講演の前半では、文字の形によって情報の伝わり方に差が出ることについて考えます。後半では、英文などでの情報発信の際のマナーやフォントの効果的な使い方についてお話します。



小林章 | Akira Kobayashi

ドイツ Monotype 社タリエイティブタイプディレクター。欧文書体の国際コンペティションの本文書体部門で2度のグランプリを獲得して2001年よりドイツ在住。オリジナル欧文書体の制作や日本語書体のデザイン監修に携わるほか、ソニー、アリババ、UBSなどの欧文カスタムフォントを手がけ、ドイツ Red Dot 賞をはじめ世界的なコンテストの審査員を務める。2022年にはニューヨーク・タイプディレクターズクラブ栄誉メダルを受賞。

著書に、『欧文書体: その背景と使い方』、『欧文書体2: 定番書体と演出法』、『フォントのふしぎ: ブランドのロゴはなぜ高そうに見えるのか?』(いずれも美術出版社)、『もちモン: 日本の看板文字はなぜ丸ゴシックが多いのか?』(グラフィック社)、『英文サインのデザイン: 利用者に伝わりやすい英文表示とは?』(田代眞理氏との共著、BNN 新社)『欧文書体のつくり方: 美しいカーブと心地よい字並ひのために』(Book&Design)があり、2025年5月には『欧文書体』の20年ぶりの全面的な改訂版となる新刊『欧文書体: 基礎知識と使い方』が刊行される。



問合せ | 同志社女子大学京田辺キャンパスメディア創造学科事務室
TEL | 0774-65-8635
web site | <https://dwcmedia.jp/>

グラフィックデザイン | 仁木希実、野村楓夏、濱崎多恵